

# 障害者スポーツ推進事業 事業成果報告書

滋賀県 2024年3月

=====  
スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業）」

## 目次

I. 本事業における障害者スポーツの取組	2 ページ
II. 令和5年度の具体的な取組結果	4 ページ
1. 体制整備事業（新規）／体制整備事業（充実）	4 ページ
2. 体制整備事業（先進）	5 ページ
3. 障害者スポーツ推進会議における意見等	5 ページ
4. 特別支援学校の部活動の状況	6 ページ
III. 取組による成果	7 ページ
IV. 今後の展開方策	7 ページ

## はじめに

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行され、感染対策に注意を払いながらも、スポーツを「する」「みる」「支える」環境を本格的に取り戻しつつある。

こうした中、特別全国障害者スポーツ大会 燃ゆる感動 鹿児島大会には、滋賀県から多くの選手・スタッフを派遣し、日頃の成果を存分に発揮いただいた。また、第61回滋賀県障害者スポーツ大会を始めとした障害者スポーツ大会の開催等を通じて、障害者スポーツの振興を図るとともに、令和7年（2025年）に迫った国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の機運醸成を図った。

障害者スポーツ普及の面では、総合型地域スポーツクラブや市町障害者スポーツ協会（以下、「総合型クラブ等」）、スポーツ関係団体の協力のもと、平成27年度から実施している障害者スポーツに関する事業の一層の充実に取り組み、障害のあるなしに関わらず誰もが身近な地域でスポーツに親しむ機会の拡充を図った。

この報告書は、それらの取組をまとめ、地域での障害者スポーツへの取組を促進するとともに、特別支援学校・特別支援学級等に通う児童生徒のスポーツ活動の場の充実を図るための基礎資料とする。

## I. 本事業における障害者スポーツの取組

本年度は、スポーツ庁委託事業である「障害者スポーツ推進プロジェクト（特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業）」を受託し、総合型クラブ等が、これまでのノウハウを活用しながら障害者スポーツ教室に取り組み、特別支援学校・特別支援学級等に通う児童生徒等をはじめとした幅広い障害者のスポーツ実施の受皿となることを目的として、①体制整備事業（新規）②体制整備事業（充実）③体制整備事業（先進）に取り組んだ。

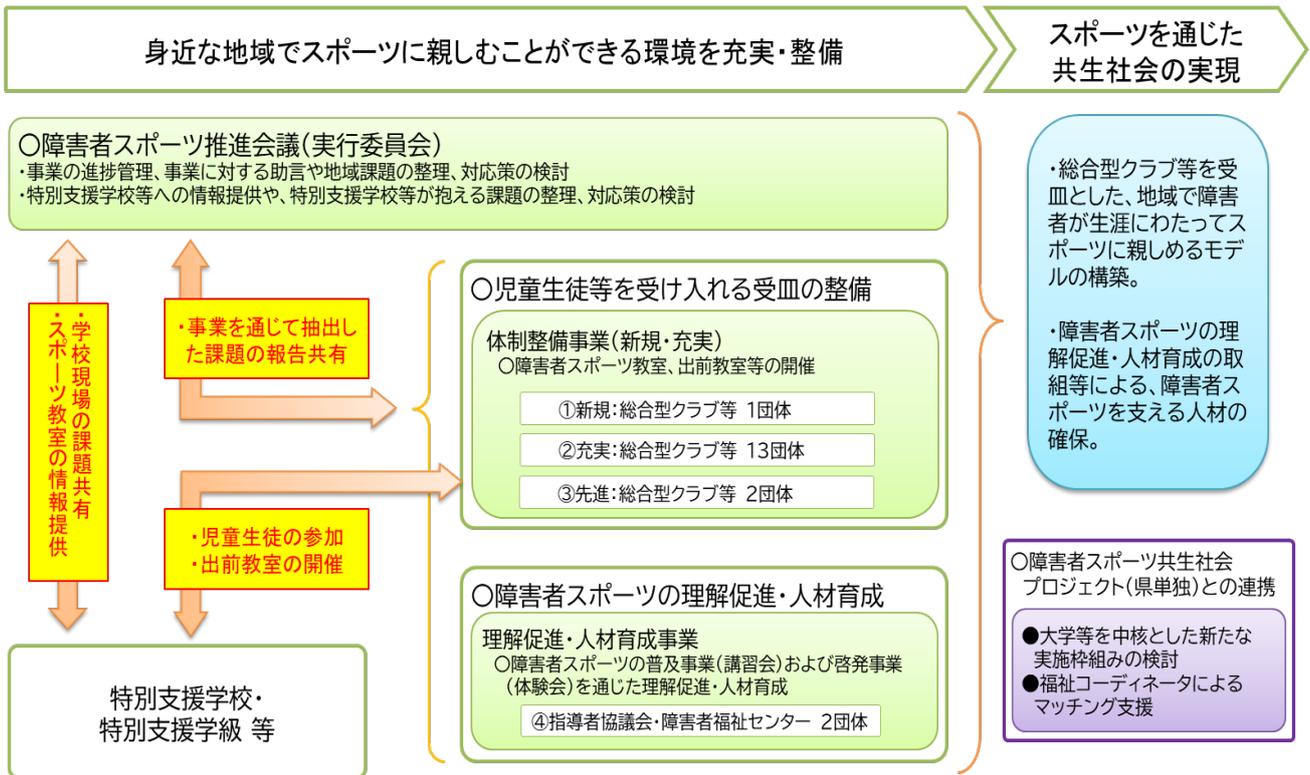
①体制整備事業（新規）では、特別支援学校・特別支援学級等の児童生徒をはじめとした幅広い障害者が身近な地域でスポーツに親しめるよう、障害者スポーツ教室の実施の少ない地域での障害者スポーツ教室の拡充に取り組んだ。

②体制整備事業（充実）では、平成27年度から障害者スポーツ教室を継続してきたことで得られた地域とのつながりをさらに発展させ、かつ、特別支援学校等との関係を構築するため、障害者スポーツ教室の対象を特別支援学校等にも拡大し、幅広い障害者が身近な地域でスポーツに親しめる環境整備に取り組んだ。

③体制整備事業（先進）では、先進的に障害者スポーツ教室に取り組む総合型クラブ等が、特別支援学校等の児童生徒も対象に広げたスポーツ教室を開催するほか、教室見学会の開催や、他の総合型クラブ等の教室等にスタッフを派遣することで、教室開催のノウハウを共有し、障害者スポーツの普及に取り組んだ。

また、様々な関係者から構成される障害者スポーツ推進事業実行委員会を設置し、障害者スポーツの実践における課題や取組の工夫について共有し、障害者スポーツの振興に向けた取組について検討を行ったほか、特別支援学校の部活動実施状況の調査を実施した。

(事業全体のイメージ)



(事業の実施体制)

	クラブ名	所在地	実行委員会:参画団体名		
新規	伴谷BANBANクラブ	長浜市	1	公益財団法人滋賀県身体障害者福祉協会	
	奥びわ湖スポーツクラブ	長浜市	2	公益社団法人滋賀県手をつなぐ育成会	
充実	NPO法人TSC	高島市	3	NPO法人滋賀県精神障害者家族会連合会	
	ぽぽんた倶楽部	甲賀市	4	一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会	
	NPO法人能登川総合スポーツクラブ	東近江市	5	滋賀県パラスポーツ指導者協議会	
	NPO法人多賀やまびこクラブ	多賀町	6	滋賀県スポーツ推進委員協議会	
	アザックとよさと	豊郷町	7	滋賀県障害者自立支援協議会	
	湖南ちよいスポクラブ	湖南市	8	滋賀県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会	
	甲賀市パラスポーツ協会	甲賀市	9	特定非営利YASUほほえみクラブ	
	守山市障害者スポーツ協会	守山市	10	びわこ成蹊スポーツ大学	
	はーと貴生川スポーツクラブ	甲賀市	11	滋賀県特別支援学校体育連盟	
	余呉はごろもクラブ	長浜市	12	滋賀県立リハビリテーションセンター	
	高月総合型スポーツクラブ	長浜市	13	滋賀県広域スポーツセンター	
	きのもとeye's	長浜市	14	NPO法人スペシャルオリンピックス日本・滋賀	
	先進	NPO法人レイノボークラブ	甲賀市	15	社会福祉法人滋賀県視覚障害者福祉協会
		NPO法人こうかサスケくらぶ	甲賀市	16	滋賀県障害者卓球連盟
				17	滋賀友泳会
			18	滋賀県立聾話学校	

## II. 令和5年度の具体的な取組結果

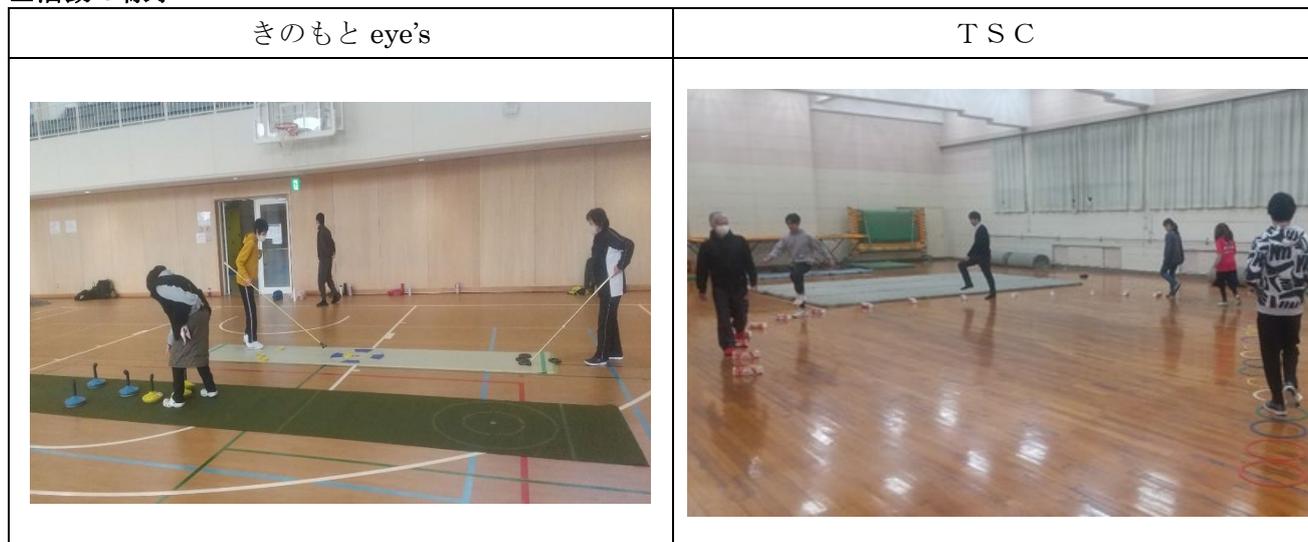
### 1 体制整備事業（新規）／体制整備事業（充実）

- ・ 令和5年度は、新規1団体、充実13団体に委託して実施した。
- ・ 各総合型クラブ等がこれまでの活動で関係を構築してきた近隣作業所、放課後等デイサービス、障害者福祉施設等と連携し、特別支援学校・特別支援学級の生徒・卒業生を含め、幅広い障害者に向けて教室を実施。
- ・ 実施内容は各総合型クラブで工夫しながら、ボッチャや卓球などの個別協議のほか、指先から体幹まで刺激を与える運動や、トランポリン等も実施。

#### □実績

番号	クラブ名	地域	回数 (回)	参加者数 (人)
1	高月総合型スポーツクラブ ピース	長浜市	11	50
2	ぼぼんた倶楽部	甲賀市	8	64
3	NPO 法人 TSC	高島市	7	20
4	きのもと eye's	長浜市	11	174
5	奥びわ湖スポーツクラブ	長浜市	9	117
6	NPO 法人能登川総合スポーツクラブ	東近江市	5	73
7	NPO 法人多賀やまびこクラブ	多賀町	5	38
8	NPO 法人アザックとよさと	豊郷町	6	140
9	湖南市ちよいスポクラブ	湖南市	5	50
10	甲賀市パラスポーツ協会	甲賀市	6	128
11	守山市障害者スポーツ協会	守山市	7	65
12	はーと貴生川スポーツクラブ	甲賀市	10	220
13	余呉はごろもクラブ	長浜市	11	27
<b>新</b> 14	伴谷 BANBAN クラブ	甲賀市	5	40
合計			106	1,206

#### □活動の様子



## 2 体制整備事業（先進）

- ・ 令和5年度は、2団体に委託して実施した。
- ・ ボッチャやフライングディスクなど個別競技を行うほか、リズム体操やストレッチ体操など基礎的な体の動かし方をレクチャーする取り組みも実施。
- ・ 担い手育成の面では、他団体（リハビリテーションセンター等）の視察の受け入れにより教室運営や参加者対応をレクチャーするほか、行政職員や福祉施設職員の視察の受け入れも実施。

### □実績

番号	クラブ名	地域	回数 (回)	参加者数 (人)
1	NPO 法人こうかサスケくらぶ	甲賀市	10	96
2	NPO 法人レインボークラブ	甲賀市	11	176
合計			22	272

### □活動の様子



## 3. 障害者スポーツ推進会議における意見等

- ・ 学校では、保護者との話題は校内の生活が中心となり、地域でのスポーツ活動の状況把握が十分にできていないことが課題と感じている。
- ・ 特別支援学校・特別支援学級等の児童生徒のスポーツは保護者の理解がなければ成立しない面もあり、そのために安心して参加できる体制づくりが必要。
- ・ 児童生徒や選手の移動手段が課題。
- ・ 体育を含めてスポーツ活動において視覚障害者が取り残されている。
- ・ 精神障害者は、支援センターや作業所で過ごしている方が多く、スポーツ活動とつながりにくい。全国障害者スポーツ大会（わたSHIGA輝く障スポ）を通して、精神障害者のスポーツ普及に繋げていきたい。

- ・特別支援学校教員経験者が地域での活動に携わることで、連携がとりやすくなり、効果が表れている。
- ・地域の障害者スポーツの受皿として活動している団体は一定あるので、学校での情報共有を進めてもらえばより活性化が期待できる。
- ・小学校の支援学級で運動に親しむ機会があれば、中学校、高校と進む中で引き続き運動に親しむことができる。小学校の段階で「運動が楽しい」と思えるような取り組みが重要。
- ・参加者負担について、1日数百円、月に1万円程度の給与を得て働いている方が多い状況で、自ら費用を負担してスポーツ活動に参加するのは難しい面もある。
- ・企業等から資金を出してもらうには、パラスポーツの看板選手を育成し、パラスポーツに注目を集めることも重要。トップ選手になると、企業から多くの資金を得ることもできる。普及の部分は公費も使いながら裾野を広げ、そこからトップ選手に上がっていく道筋が描ければ、障害者スポーツの定着につながるのではないかと。

#### 4. 特別支援学校の部活動の状況

- ・今年度は県内16校の特別支援学校に部活動の状況を調査した。
- ・盲学校では、近畿大会で実施される種目（水泳、ゴールボール、サウンドテーブルテニス）に取り組む運動部と、柔道部が活動している。活動は週に1回程度の活動となっている。
- ・聾話学校では、部活動として卓球と陸上競技を実施。平日4日＋土曜日に実施されており、中等部・高等部それぞれ10名が参加している。
- ・養護学校（10校）では、高等部の自主通学生を対象に、特定のスポーツではなく、各種スポーツやレクリエーション、文化活動に取り組む学校が多い。一方で、部活動として特定の競技（陸上競技、卓球、バスケット）に取り組む学校もある。参加者は10～20名程度、週1～3日実施している学校が多いが、毎日実施している学校もあった。
- ・高等養護学校（4校）では、いずれの学校でも高等養護単独で実施するものと、高等学校の部活動に参加するものが並行して行われている。高等学校の部活動では陸上競技、バスケット、卓球、フェンシング、アーチェリーなど多様な競技に参加している。単独実施の場合は週2～4日程度実施、高等学校の部活動に参加する場合は、当該部活動の日程に合わせて行われている。参加者数は、単独実施と合同実施で同じ程度の人数となっている。

### Ⅲ. 取組による成果

- ・体制整備事業として新規・充実・先進合わせて16団体により障害者スポーツ教室を実施し、特別支援学校・特別支援学級等の児童生徒を含めた多くの障害のある方に運動機会を提供し、障害者スポーツの裾野拡充に繋がられた。
- ・先進クラブの教室に他団体からの視察の受け入れることで、教室運営のノウハウを共有し、障害者スポーツに携わることができる人材の育成を図ることができた。
- ・学校に対して障害者スポーツ教室への参加を案内することで、地域でのスポーツ教室を認知してもらい、教室参加に繋がった。
- ・障害者スポーツ推進会議では、多様な立場から意見を交換する場となり、各現場での課題や工夫を共有することができた。特に教員が委員として加わることで、学校現場における地域スポーツ活動に対する認識や、総合型クラブ等との情報共有に関する課題を認識でき、今後の学校と総合型クラブ等の連携を推進する基礎とすることができた。

### Ⅳ. 今後の展開方策

- ・本県での開催が令和7年度に迫った全国障害者スポーツ大会（わたSHIGA輝く障スポ）をきっかけに、より多くの方がスポーツに取り組むようになるよう、障害者スポーツを行う機会の拡充を図るとともに、障害者スポーツへの更なる理解促進を進める。
- ・総合型クラブ等を拠点とした障害者スポーツ教室を引き続き実践し、特別支援学校・特別支援学級等の児童生徒を含めた幅広い障害者が、身近な地域でスポーツに親しむことができる環境づくりを進める。
- ・特別支援学校・特別支援学級と総合型クラブ等の連携を強化し、教室への参加促進、学校での出前教室の取組拡充を図る。
- ・特別支援学校・特別支援学級と総合型クラブ等が、それぞれの場所での生徒児童の活動状況を共有できるよう、特別支援学校等の教員の参加などの仕組みの検討を進め、実施のための制度上の諸課題の整理と解決を図る。
- ・持続可能な取組とするため、行政からの支援だけでなく、利用者負担や企業等からの協賛を得る仕組みを検討し、総合型クラブ等が自立的に教室に取り組める体制の構築を目指す。

## おわりに

本県での障害者スポーツ推進事業は9年目となり、総合型クラブ等を拠点とした障害者スポーツの実施環境の整備の取組が認知されてきた。障害者スポーツ教室を行う総合型クラブ等の数も増加し、障害者がスポーツに親しむ環境の整備が進んでいる。

一方、総合型クラブ等での取組みを、特別支援学校・特別支援学級等の児童生徒のスポーツの実践に繋げていくには課題も多い。障害者スポーツ推進会議等を通じて、総合型クラブ等と学校、それぞれの認識や課題の共有を進め、両者が有機的に連携しながら障害者のスポーツ環境の充実を推進できるよう取り組んでいく。

令和7年に迫った全国障害者スポーツ大会（わたSHIGA輝く障スポ）に向け、障害者スポーツの振興と理解促進を進めて大会の機運醸成を図るとともに、わたSHIGA輝く障スポをきっかけに、本県の障害者スポーツがより一層発展できるよう、引き続き障害者スポーツ推進に取り組んでまいりたい。